

日本紙工機械グループ 柔軟なマシン開発PR

新型紙器用グルア「Nexia」発表会で実演



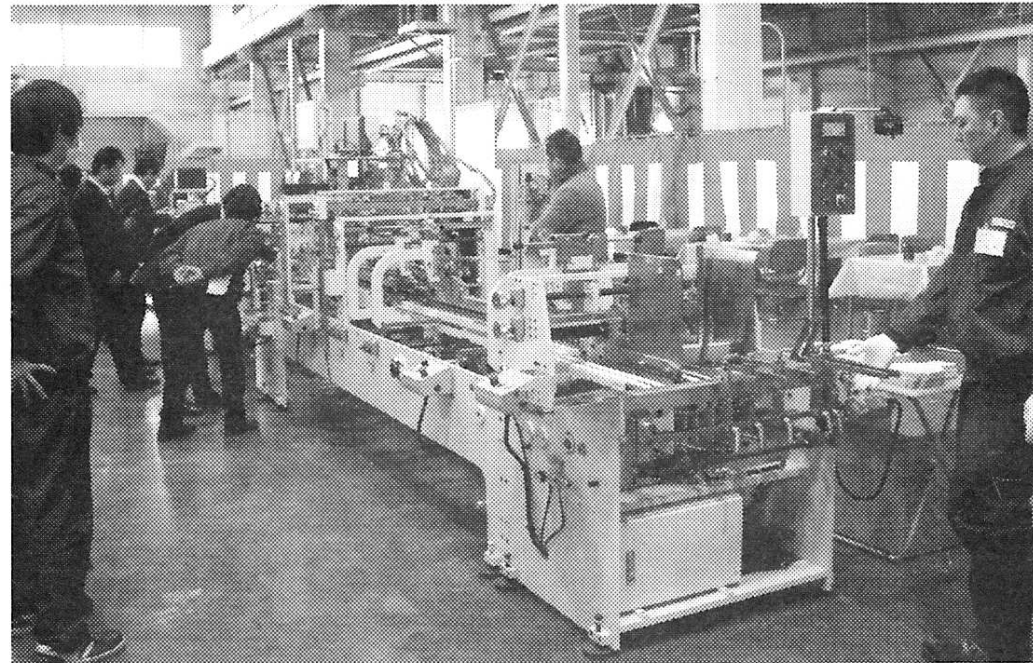
(株)日本紙工機械グループは2月9～11日の3日間、本社工場（茨城県利根町）で新型紙器用グルア「Nexia」（ネクシア）「発表会を行った。ハイスペックでカスタマイズが主流の既存機GMシリーズのスタンダード

モデルとして新たに開発。シンプル構成を追求することで堅牢さや使い易さ、省スペース化、低価格帯などを実現し、高品質も両立している。およそ40名が来場した。

早部慎一郎副社長「写真①は開会挨拶で「昨年発表した新型段ボール用グルアExionは、IOT等も視野に先進機能を搭載したが、今回はあえて逆行させる。グルア（サックマシン）の基本構成は、この50年で大きく変化していないが、頑丈さや使い易さなど普遍的な良さを追求した。10年保証をアピールしている」と強調。

シンプルさと高品質を両立したマシン機構についても説明。給紙部を単独駆動とし横移動・半自動方式などに、プレフォーム部にはサイド糊壺（スイング方式）を、本

実演では菓子箱を製



箱。給紙シャッターの角度調整やフック圧力（強さ）レギュレータ調整、操作側のトロンボーン部変速等の新機能にも注目が集まった。現状把握し易くなった操作モニターはチョコ停の抑制にもつながる。

新型紙器用グルア「Nexia」。堅牢さや使い易さ追求

1号機は2月下旬、埼玉の印刷紙器メーカーに納入。早部副社長は「同社を含め旧菅野ユーザーおよびファンは少なくない。ハイスペックとスタンダードモデルの双方をラインナップすることで、お客様の幅広い仕事にもさらに最適なご提案ができる」とした。来年以降、中国でも販売開始する計画だ。

Nexiaのネーミング由来は、NEXT（次に）とAXIA（ギリシヤ語で「価値あるもの」を合わせた造語である。同社では「旧タナベ、旧菅野ともに70年以上の歴史があり、日本紙工機械グループの前身であったタナベインターナショナルから数えて約10年、これまで様々な面で相乗効果を発揮してきた。近年では技術と営業部門の融合も進み、設計部門で

も若手が中心となっている。今だからこそ、幅広いマシン開発ができる」とした。